

支援学校

高等学校の

地垣連携
地垣交流

英語理数科の連携について

都留興讓館高等学校

1. 都留文科大学との連携（実施日：毎週火曜日、対象：1・2年生）

「総合的な探究の時間」において、都留文科大学留学生との英会話学習を行っています。本校英語理数科では、様々な出身国やルーツを持つ留学生との交流を通して、広い視野と豊かな国際感覚を磨き、国際社会で活躍できる人材の育成をより一層推進させていくことを目標としています。

前期は、イギリス、フランスからの留学生計5名、後期はイギリス、フランス、スウェーデン、デンマーク、ベルギーからの留学生計12名を迎えました。授業では異文化理解を主にディスカッションを行っています。PowerPointを活用した自国の紹介やコミュニケーションゲームなどを実践し、生徒たちは活発なコミュニケーションを通して生きた英語を学ぶことができました。また、自由な交流を通して、自国の日常生活や諸課題についても語り合う機会となりました。

このような活動を通して、生徒たちはリスニング力やスピーキング力を伸ばし、実用英語技能検定やG-T E Cなど各種検定試験においても高い成果をあげています。



2. 大学との連携（実施日：5月23日、10月19日、対象：1・2年生）

進路研究の取り組みの一環として、毎年大学見学会を計画しています。今年度は都留文科大学、東京都立大学、青山学院大学での見学会を実施しました。大学の充実した研究施設を見学したり、各学部の研究内容を聞いたりすることで今後の学習活動に対する目的意識の向上を図ることを目標としています。



3. 山梨県内ALT、外国人講師との連携（実施日：6月10日、対象：全学年）

山梨県内のALT (Assistant Language Teacher) や外国人講師を招き、一人一人が生きた英語に触れ、英会話の実体験をする「イングリッシュワークショップ」を毎年実施しています。多くのALTと交流することで、生きた英語に触れるだけではなく、異文化について学ぶことと英語を使って自分の考えを伝えることで、英語学習の一助にすることを目標としています。

今年度のアクティビティの主な内容は、Pronunciation game（発音ゲーム）、Culture differences（異文化理解）、Grammar+Idioms（文法とイディオム）、Self-Defense（護身術）、Cooking practice（調理実習）です。



令和5年度「連携についての実践報告集」

山梨県立吉田高等学校

実践事例 1

令和5年度「教育ボランティア」

本校では地域貢献の一環として、平成20年度より、進路が決定した3年生を近隣の小中学校へ教育活動の支援を行うスタッフとして派遣してきました。この事業を通じて、本校の教育活動への理解を深めていただくこと、地域全体の教育力の向上に貢献することが目的です。

過去9年間に及ぶ活動は、小中学校からも高い評価を受けると同時に、参加した生徒たちにとっても、高校生活の最後を飾る有意義な行事となってきました。

教員志望の生徒や福祉、ボランティア活動に興味関心を持つ生徒が多数参加しているこの活動に、今後も積極的に関わらせていただきたいと思います。

〈 概 要 〉

- 1 派 遣 校 下吉田第二小学校 下吉田中学校
- 2 活 動 日 令和5年2月中（登校日を除く。本校の校内行事に支障のない範囲で活動）
[下吉田第二小] 2月20日（月）、21日（火）、24日（金） いずれも終日（給食あり）
[下吉田中] 2月20日（月）16:00～17:00
21日（火）15:20～17:00
- 3 活 動 内 容
[小学校] ・授業中の教科学習補助
・清掃・給食のお手伝い

[中学校] ・定期試験に向けて放課後に行う、英語・数学等の補習補助



実践事例 2

プロジェクト 2 2 3 (フジサン)

本校では、自分たちが所属、生活する地域社会が抱えている様々な課題について、主体的にとらえ考え、解決に導く力を生徒に身に付けさせたいという観点から、「富士山学」という独自科目を設定し、主に総合的な探求の時間を中心に、さらに富士北麓地域を対象として課題探究活動を行っています。富士山学の基本的構成は、さまざまな領域から講師を招いて講義講演を受け、まずは多くの知識や情報をインプットして行く段階と学んだ情報、知識から自分が探求しようとするテーマを見つけ実際に活動して行くというステップとなっています。この「プロジェクト 2 2 3」は、そのインプットの段階にあたるもので、

①富士山および富士北麓地域のために行われている取り組みについて、より実際的な話を聞き、「富士山学」への各自の取り組みの参考とする。

②「富士山学」への各班の取り組みについて、富士山および富士北麓地域の方から助言をいただき、今後の活動に活かす。

という目的の下、さらに一步踏み込んだ、体験や経験談、あるいは実体験をするというものです。

〈 概 要 〉

6月21日(水) : プロジェクト 2 2 3 (グループ毎本校内各会場)

富士吉田商工会青年部の講師から事例提供を受け、各グループ企画書にアドバイスを受ける。講師・アドバイザー計 20 名

〈 具体的テーマ 〉

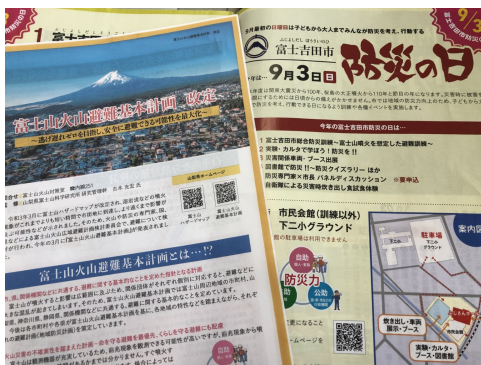
講師氏名	ジャンル	講演タイトル
渡辺果林	子育て	わがままママのわがまなまま
小野利郎	建築	富士吉田の文化
羽田友太	飲食	らーめん屋になるまでと恩返し
堀内洋平	染め物	地場産業の技術を魅力に! 地元の産業を現代のマーケティングと絡める仕組み
守山龍一	防災	富士吉田市の防災対策
小林純	観光	本町通りを訪れる観光客の現状
天野慎也	観光	観光客に対して出来ることとすべきこと
外川喜彦	空き家	街中にある空き家(ゴミがいっぱい)を有効活用、 オシャレな空間を創り出そう!!
小林恵	介護	生きる ~最後まで自分らしく 最後までその人らしく~
山崎博之	織物	郡内織物の過去・現在・未来



実践事例 3

令和5年度 地域と学校の協働推進事業に関わる地域防災の取組

- 1 目的 本校は、地域の防災避難場所に指定されていることから、台風・大雨、地震、富士山噴火等の自然災害の発生に備えて、学校と地域が一体となって地域防災に取り組んでいます。今年度は、地域との協働をさらに深め、災害時にどのような役割を果たせばよいか、地域社会とどのように繋がっていけばよいかをより深く考えるために、市当局及び地域社会との連携をより緊密に進め、一つの方向性を模索、構築しています。今回は市主催のフォーラムに本校生徒教職員も参加させていただき、防災意識を高めることができました。学校と地域が一体となって防災教育に取り組み防災に対する意識を向上させると同時に、地域を大切にする心を育む契機としての行事でしたが、今後も定期的に今回のような、情報共有と交換、学びの機会を作っていきたいと思っています。
- 2 日時 令和5年9月3日（日）13：30～15：30 「防災フォーラム」
@富士吉田市民会館 ふじさんホール
- 3 内容 富士吉田市防災の日に行われる防災専門家と市長によるパネルディスカッション「富士山噴火を知る」～住民として児童・生徒としてどう備えるか～への参加。本校の富士山学の防災グループ（2年）15名程度と防災委員（1，2年）20名程度が参加し、地域防災について質問し見聞を深めました。
- 4 その他 今後富士山学の防災グループが、富士吉田市役所防災課職員、富士吉田市消防署職員、地元自治会の代表者等とワークショップを開催する予定です。
今回、市や地域の自主防災会から担当職員や代表の方々をお招きして「地域と連携した防災教育の取組」をテーマに会合を開催することができました。



高校生と小学生の交流から生まれるもの

山梨県立富士北稜高等学校

本校では毎年小学生と交流を行っております。小学生には特色ある総合学科の授業の一端を見学することで、小学生たちの望ましい職業観の育成やキャリアに対する考え方を学んでもらっています。本校の生徒にとっては年下の子どもたちとの交流により自ら学習している内容の専門性を再確認できる良い機会となっております。どの事業も小学生の反応が良く、本校生徒も学習の励みになっているので今後も永く続けていきたいと考えております。今回は2つの交流事業をご紹介します。

1 小学6年生の本校見学（小学校との連携）

今年度は、前期に富士吉田市立明見小学校、後期に富士吉田市立吉田西小学校それぞれの6年生が来校し、本校の各系列の授業を見学しました。この事業は3年前に6年生のキャリア教育の一環として始められたものです。小学校にはない教室設備、道具、そして専門性に富んだ授業内容に驚き、高校生から説明を受けることで高校生が将来の仕事についてどのように考えているかを把握していました。見学後の質問も時間いっぱいになるほど積極的に学ぼうという姿勢が見られました。本校では当日案内する生徒には、各小学校の卒業生を担当させています。同じ地区に住んでいる異年齢の交流もでき、今後の地域の発展にも寄与できていると感じる事ができる一時でした。次ページでは連携の具体的な要項を示します。



吉田西小学校・富士北稜高校 連携事業

日時 令和5年10月23日(月) 吉田西小学校 中休み～4校時
富士北稜高校 3校時～4校時

対象 小学校:6年生53名 / 高校:3年次生5系列

時程

吉田西小学校		富士北稜高校	
10:30～10:55	[中休み]	9:55～10:45	[2校時]
徒歩にて移動(雨天の場合マイクロバス稼働)		10:45～10:55	休み時間
北稜高校にて高校生(案内人)と顔合わせ			
・吉田西小学校卒業の高校生がいたらマッシュングする。 ・案内役の生徒が児童を連れて、教室まで校内を紹介しながら案内する。			
10:55～11:15	授業参観①	10:55～11:45	3校時
系列	授業名	参観者数	案内生徒
福祉健康系列	生活技術支援	9名	
総合ビジネス系列	中国語入門	6名	
電気情報系列	プログラミング	6名	
機械テクノロジー系列	ハードウェア技術	12名	
建築デザイン系列	自動車整備	12名	
	インテリア計画	12名	
教室移動			
①案内役の生徒は、参観していた小学生を3Fビロテイに連れていく。 ②全員が揃ったところで2回目の参観のグループに並び替える。 ③人数を確認して教室へ2グループ目の小学生を連れていく。			
11:20～11:45	授業参観②	10:55～11:45	3校時
系列	授業名	参観者数	案内生徒
福祉健康系列	生活技術支援	8名	
総合ビジネス系列	中国語入門	4名	
電気情報系列	プログラミング	6名	
機械テクノロジー系列	ハードウェア技術	11名	
建築デザイン系列	自動車整備	12名	
	インテリア計画	12名	
教室移動・各教室から視聴覚室へ・質問を受ける生徒が誘導する(1系列2名・公欠扱い)			
11:55～12:10	質問タイム	11:55～12:10	質問タイム
小学生の質問に回答する・小学生にもわかる答え方を工夫する ※何を聞かれるかわからない面接の練習のつもりで臨む			
高校生活に関すること 授業に関すること 進路に関すること			
12:20～	徒歩にて帰校	12:20～	玄関にて見送り

明見小学校・富士北稜高校 連携事業

日時 令和5年7月5日(水) 明見小学校
富士北稜高校 2校時～3校時

対象 小学校:6年生59名 / 高校:明見小卒業生

予定

時間	事項	備考	検討事項
9:30	明見小学校出発		
9:50	富士北稜高校到着		
10:00	交流会開始式 ①歓迎のあいさつ ②本校の概要説明 ③案内役【明見小卒業生】顔合わせ ④グループでアイスブレイク	案内役の生徒は滞在中一緒に過ごすので、縦のつながりの形成を目的としている。	
10:20	授業見学開始		
20分見学	A(10人)	B(10人)	C(10人)
	3年地域観光	福祉課題研究	3年電子商取引
	3-1	調理室・被服室	第1ビジ
			電気磁気実習室
10:50		2校時 → 視聴覚室へ(休憩)	
10:55		3校時開始	
11:00		見学開始	
20分見学	A	B	C
	科学と人間生活	2年数学	英コI
	生物実験室	第7講義室	1-1
			第2体育館
11:20		見学終了	
		↓	
		視聴覚室へ	
	交流会終了式		
11:25	①質問受付		・見学後に児童が聞きたいことを高校生が答える。 ・事前に質問を用意しておくことも可能。
11:45	②明見小代表児童あいさつ		
12:00	北稜高校出発		トイレ休憩後出発
12:00	明見小学校到着		

・見学場所への移動中は施設を説明する。
・グループごとに異なるので後で共有することも可能。

心とからだの理解

第1福祉

第1福祉

2 親子カルチャー教室（南都留地域教育推進連絡協議会）

今年度 21 回目となる「親子カルチャー教室」は、夏季休業中に小学生 4～6 年生を対象として 3 つの系列が系列ならではのプログラムを開講し、小学生に体験してもらう取り組みです。高校生が「ミニ先生」として小学生と一緒に作業にあたります。毎年たくさんの児童のみなさんからの応募がある人気の事業となっております。新型コロナウイルスへの対応が第 5 類に移行した今年度、やっと本来の活動ができるようになってきました。昨年度までの 3 年間は感染対策を講じた上での制限の中で行ってきたこともあり、小学生の活動するときの真剣なまなざしや高校生の力が入る指導を久しぶりにみることができ、有意義な一日となりました。

●参加した小学生の感想●

- ミシンやアイロンは初めて使うからきんちょうしたけど、上手にできてうれしかったです。5 年生か 6 年生の家庭科でミシンやアイロンを使うかもしれないから、みんなにもおしえてあげたいです。
- 初めてミシンを使って、むずかしかったけど楽しかった。ポケットティッシュポーチは日常生活でとてもやくだつから、作ってよかったと思った。自分でつくってきれいに完成したからうれしかった。ミニ先生がやさしくて分かりやすかった。
- 左右に頭をふって走るのがおもしろかった。ミニ先生がやさしく教えてくれてうれしかった。また、トラブルがあった時も手伝ってくれてうれしかった。
- おもしろかったことは、砂をいれたり、かためたりすることがおもしろかったです。とてもいいけいけんになってよかったし、お兄さんがやさしくおしえてくれてうれしかったです。



地域・NPO と連携したキャリア教育 ～ひばりのドリカムプラン～

山梨県立ひばりが丘高等学校

1 本校のキャリア教育における取り組み

平成22年度から生徒の自己肯定感、自己有用感の涵養を主眼に置いたキャリア教育プランとして、「ひばりのドリカムプラン」を立ち上げ、生徒・職員の意識の向上に努めてきた。

地域の外部人材を活用した体験活動や就労意識を高める取り組みを行っており、その主なものは以下の通りである。



活動名	内容【対象年次】	連携
創作授業	木工、革細工、切り絵、陶芸、絵手紙などの創作活動【全年次】	地元で活躍する専門家
探究活動	「うどん探究」【1年次】 「地域探究」【2年次】 「自己探究」【3・4年次】	うどん店経営者、富士山プロダクト、地域史の語り部、NPO法人「かえる舎」
キャリアガイダンス	様々な職種の説明会・体験【全年次】	専門学校講師・各企業講師
ジョブカフェ	就職に向けた面接練習やマナー講座、履歴書の書き方など【3・4年次】	ハローワーク、山梨労働局
野菜・花づくり	校内の空きスペースを活用した栽培【2年次】	園芸に詳しい地域のお年寄り
フラワーアレンジメント	生け花の体験【1年次】【夜間部】	地域文化「ひまわりの会」

2 ひばりのドリカムプラン

(1) 創作授業

ひばりのドリカムプランの中で最も特色ある取り組みが創作授業である。1学期末に5日間の日程で全校生徒が創作活動に取り組む。

1・2年次生は「個で作品を完成し、達成感を味わう」ことを狙いとし、革細工、切り絵、陶芸、絵手紙など、計7部門の中から選択して思い思いの創作に取り組む。

3年次生は「集団で協力し出来上がった作品が、他人のためになる喜びを味わう」ことを狙いとし、昨年度までは折り紙のコラージュを制作し、完成した作品は校内のショーケースに展示され、生徒・職員及び訪問者の目を楽しませてくれている。本年度は、新たな取り組みとして刻字による校歌レリーフを制作した。

4年次生は「集団で協力して完成した作品が、公共のためになる喜びを味わう」ことを狙いとし、木工作品の製作に取り組む。これまで、本棚やベンチの製作に取り組む。作品は地域の小中学校等に寄贈してきた。昨年度からはベンチを製作し、本校の隣に新設された民間の複合型福祉施設に寄贈した。



過去に製作した本棚



製作したベンチ

地域との連携を活用し、それぞれの狙いを達成している有意義な活動であると感じている。

(2) うどん部とうどん探究

① うどん部

平成22年から地元市民に愛される「吉田のうどん」の情報を全国に発信し、「讃岐うどんを越える」くらい有名にしようと、日々活動している。フリーペーパー『うどんナビ』発行、うどん店営業、イベント出店、商品開発など活動内容は多岐にわたる。

『うどんナビ』は、市内外に約55軒あるうどん店の情報を発信するため、毎年発行しており、一昨年で11年目を迎えた。年々、支援してくださる団体も増え、令和3年度のVol.11は8万5千部を発行した。製作にあたっては、うどん店1軒1軒に何度も足を運んで取材し、商品撮影を行うだけでなく、店主と対話を重ねた。部員がうどん店を取材した回数は延べ300回を越え、食べたうどんは1,000食を軽く上回っている。令和4年度以降は新型コロナウイルスの影響などもあり、新刊の発刊を中断しているが、県内外からの要望は多い。



イベントでの出店も部の活動として定着し、ヴァンフォーレ甲府公式戦や県民の日記念行事（富士吉田会場、甲府会場）など、県内外の



イベントでの出店の様子

方々と交流する機会となっている。吉田のうどんの PR 活動として始めた活動であるが、店舗営業を行う大変さを実感しながらも、食の提供を通してお客様からの感謝の言葉をいただく喜びを味わうことができ、部員達は達成感を得ている。

平成30年度に地元スーパーマーケットのご厚意で開店したうどん店であるが、現在、日曜日（ほぼ隔週）の11時から13時30分限定でうどん店を営業しており、毎回約100食提供しているが、県外からの来店やリピーターも多い。また、後継者不在により廃業した老舗うどん店の味を引き継ぎ数量限定で提供しているが、昔ながらの懐かしい味を求めて来店される方も数多い。

昨年度からは、さらなる社会貢献・地域貢献ができればと考え、数年かけて準備してきた「子ども食堂」の運営にも乗り出した。子ども達に楽しんでもらうことはもちろん、子育てに忙しいお母（父）さん方などに、ゆっくりと食事の時間を過ごしていただければと励んでいる。事前予約制となっており、部の SNS でお知らせしているが、市の子育て支援課にもご協力いただき、子育て世代のご家庭に周知している。

②うどん探究

うどん部の活動を生徒全体に広げようと、カリキュラム（総合的な探究の時間）に組み込むことを考え、昨年度から1年次生全員が取り組んでいる。独自に考案した教案をもとに、地元うどん店の経営者の方からのレクチャーにより、うどんを通して地域の産業や歴史を学んだり、うどん部顧問とうどん部員の指導のもと、うどん作りを体験したり、地元の食文化の継承につながる活動となっている。

（3）学校設定科目「ライフスキル」

①概要

本校では、令和2年度から「高校における通級による指導」実践研究校に指定され、学校設定科目「ライフスキル（Ⅰ・Ⅱ）」を開講し、カリキュラムの研究開発に取り組んでいる。

本校において、人間関係を構築する力やコミュニケーション力に課題のある生徒の数が増えていることから、（特別支援学校学習指導要領に示されている）自立活動の内容を参考にした授業を通して、自分の特性等を正しく理解し、心理的な安定や人間関係形成能力やコミュニケーション力を高め、環境への適応を円滑にすることを第一のねらいとしている。

また、学校内での適応だけでなく、卒業後の適切な就労も視野に入れ、必要に応じて外部機関との連携を図っている。就労に向けて長期休業中にインターンシップを設定し、実際に働く経験を通して、企業からの評価を受けることで、生徒は自らの職業適性を知ることができる。事前・事後学習では、事前の挨拶、お礼状の作成といった活動を行い、社会で活かすことができる力やマナーの獲得を目指している。

②企業との連携

「ライフスキルⅡ」のインターンシップは、地元企業の厚意と協力により実施している。職場体験をさせていただいた企業の指導員から評価をいただくことで、自覚していない課題とも向き合い、より就労への意識を高め、意欲をもたせることが可能となっている。授業で学んだ知識を現場で生かし、「働く」ために必要なスキルを事前・事後指導を通して実感させることによって、進路指導に活かしている。特に、各企業には、「雇用者としての視点での評価」をお願いし、企業にその意図を理解していただいている。率直かつ的確な評価をいただくことで、生徒にとっては、自己評価と他者評価の相違を認識する貴重な機会となっている。企業からの評価は、「働く」ために必要なスキル・心構えの重要性を実感できる事後指導として活用することが可能となっている。



インターンシップ（夏季休業中）



インターンシップ（冬季休業中）

③就労につながる取り組み

「ライフスキルⅡ」は、就労体験だけでなく、受講生徒への進路指導、その先にある進路実現へ結び付けることを目標としている。得手不得手、向き不向きを含め、特性や就労についての情報を生徒自身が認識し自己の進路を考えるには、多様な職種におけるインターンシップの場が必要である。そのためには、協力してくださる企業や福祉事業所などの開拓・確保が今後の課題となっている。

また、高校のインターンシップは、一般的に3～5日程度のため、継続的に働くことのイメージをもつことが困難である。インターンシップが単なる就労体験にとどまらず、その後の生活や進路に対する考えにも効果が出るように、事前・事後学習を充実させていく必要がある。その中で、受講生徒が自分自身の特性について理解を深めるために必要な支援を今後も考えていく。

3 終わりに

本校では、生徒たちが充実した高校生活を送り、成長し、卒業後に社会で自立していけるよう、日々の教育活動を実践している。より充実したキャリア教育が実践できているのは、地域の方々の献身的なご協力のお陰であり、心から感謝している。先輩方が築き上げた数多くの連携を大切にしながらも、新たな連携を模索し、教師も生徒も、常に新鮮な気持ちで意欲をもって取り組める教育活動を今後も展開していきたい。

～ 地域課題を知る ～

山梨県立富士河口湖高等学校

1 事業名

K I P (K A W A K O I N S I G H T P R O G R A M) としての「総合的な探究の時間」の取り組み（1学年）

2 事業の目標

- ①自分が生まれ育ち、現在も居住している地域の課題について、主体的・協働的な探究活動をとおして理解を深め、将来的には地域に戻り、多方面から活性化に貢献することができる地域リーダーの育成。
- ②地域課題の取り組みから、将来の進路実現へ繋がる個々の探究活動能力を養う。

3 育てようとする資質や能力及び態度

自ら思考できる資質、論理的思考力、実践的なコミュニケーション能力、課題解決能力、そして、好奇心を高め、他者と協働すると同時に自らの意見を伝え、継続的に取り組む態度

4 活動の計画（3年間の内容）

- 1年次：「地域課題を知る」（地域課題を知ると同時に、関係する職業やその人の生き方について学ぶ）
- 2年次：「地域課題について考える」（地域課題について考え、改善・解決のためのプランニングをする）
- 3年次：「地域課題解決のための手法を発信する」（高校生として提案・発信する）

5 実施状況

- 4月・・・ ○K I Pの内容について、ガイダンスを実施
○富士河口湖町教育委員会生涯学習課文化財係による出前講座。「山梨の自然と人の関わり」をテーマに、世界文化遺産の富士山に関わる文化・信仰における時代毎の変化などの話をいただいた。
- 5月・・・ ○山梨県立文学館学芸員による出前講座
「太宰 治」をテーマに、太宰と山梨や河口湖町にある天下茶屋等でのエピソードなどを交えて作品や、生き方について、山梨と太宰との関わりについて話をいただいた。
○山梨県立美術館学芸員による出前講座
「山梨の美術について」をテーマに、山梨県に関するアーティストを中心とした美術の視点の話をいただいた。

- 6月・・・
- 出前講座を踏まえ、博物館・美術館・文学館の実際に施設に訪問する機会を設け、山梨について一層理解を深めた。
 - 富士山アウトドアミュージアム 舟津宏昭氏による講話
野生動物の交通事故「ロードキル」について活動されている舟津氏から、富士北麓地域の自然と野生動物との共生や、植物・動物を絶滅や事故から守る意味について話をいただいた。
 - 一般社団法人獣害対策支援センター 蔵岡登志美氏による講話
「富士吉田周辺の野生動物被害」について、野生動物の管理と保護の考え方についてお話をいただいた。

- 7月・・・
- 富士河口湖町政策企画課 倉澤秀樹氏による講話
「富士河口湖町（地域）の現状と課題」についてお話をいただいた。
 - 2年次での文理選択における学習として職業理解を深めるために株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ総務経理部副部長 横澤康晴氏に職業についてお話をいただいた。

- 9、10月・・・
- 2年次での文理選択における学習として、山梨の大学について出前講座等を利用して、「大学でどんなことが学べるのか」・「大学の現状や卒業後の進路について」など県内の5つの大学の先生や職員より話をいただいた。

- ①健康科学大学 ・理学療法学科について
・看護学科について

②山梨県立大学

③山梨学院大学

④都留文科大学

⑤山梨大学(5テーマ)

- ・「ひとが生きるということ～集中治療室に入室する患者さんへの看護師の関わり～」
- ・「頭がよくなる食事、睡眠、運動、そして勉強」
- ・「『見る』コンピュータ」
- ・「ワインと化学」
- ・「ウェアラブルロボット・人と関わるロボット
について」

- 11、12月・・・
- 探究の基礎的方法について1学年全体で学習する機会を設けた。(全5回)
 - 1) 課題の設定
 - 2) 情報の収集
 - 3) 整理・分析
 - 4) まとめ・表現
 - 5) ふり返り

5 事業の成果と今後の課題

探究学習を3年間かけて、自分の将来(進路)に繋がるように「地域課題」を題材にして、1年次では「知る」、2年次では「考える」、そして3年次では「発信する」を目標に計画した。

昨年に引き続き、感染症対策のため一部の講演はオンラインにしたり、実際に来校していただく形を取ったりするなど柔軟に実施した。

自分たちが住んでいる地域のことだが初めて知ることが多く、生徒は歴史・文学・自然・仕事など、自分が生きている地域や将来を考えるたくさんの学びを体験できたと考える。この体験を通して生徒は山梨や地域について「何となく知っている」から地域の現状に興味・関心を持ち、徐々に「知る」から「考える」ようになってきている。

1月からは、2年次よりスタートする地域探究学習の前段として個々(グループ)で課題を設定し、探究を実施する予定である。高校生としてできることは何かを考えさせ、地域や自分の将来について、しっかりと行動できる姿勢を身につけさせ、地域や社会に貢献できる人材を育てることが今後の課題である。



オリエンテーションの様子



校外学習の様子



講演の様子

「環境保全と共生社会の実現」

富士学苑高等学校

1. 本校におけるボランティア活動の理念

・校訓「報恩・奉仕・精進」

「報恩」・・・「おかげさま」「ありがとう」の気持ちを常に持ち、人々への感謝の気持ちを忘れない。

「奉仕」・・・「私がします」と常に率先し、善行に励む。

「精進」・・・「何事にも全力を尽くす」という「なりきる心」を体得する。



■ 本校外観



■ 接心

・校訓を実践するものとして、学校行事に「接心」がある。作務（掃除）、食事作法、座禅、写経等を通じ、「なりきる心」の体得に努める。作務中は、無言で草を取り除き、ほうきでゴミ、落ち葉等を掃き、そのことだけに専念・集中する。このような経験がボランティア活動の清掃に効果を発揮している。また、学校行事で年に二回「全校奉仕」が行われており、毎年春は学校周辺、秋は生徒が住んでいる地域を清掃している。日頃お世話になっている地域に感謝の意を込めて清掃し、富士山世界遺産の地元として、良い環境作りに貢献することを目的に実施している。さらに、地域との連携を図るため、インターアクトクラブが地域ボランティアの推進に励んでいる。インターアクトクラブは、各地域の団体と連携し地域行事等に参加している。

※インターアクトクラブとは富士吉田のロータリークラブの提唱によって国際ロータリー第 2620 地区のインターアクトクラブとして 1990 年に発足した。今年で 32 周年を迎える伝統あるクラブである。また、第 2620 地区には静岡と山梨を合わせて 20 校のインターアクトクラブが所属し、交流を図っている。

2. インターアクトクラブの活動

① 活動事例 1 「社会奉仕活動」 連携 富士吉田ロータリークラブ 様
昭和大学 様

・事業目的

「衛生性」・・・地域住民が健康に暮らせるまちづくり

「美観」・・・地域住民、観光客等様々な人々が美しいと思えるまちづくり

「保全性」・・・世界遺産である「富士山」周辺の環境保全

「安全性」・・・人々、動物など全ての生き物が安全に暮らせる環境づくり

・ 活動内容（成果、課題等）

富士吉田ロータリークラブと連携し、富士北麓地域における清掃活動を行なった。東富士五湖道路沿いを約2時間程度清掃活動を行なった。また、目的地到着後には植樹活動を行なった。クラブ生徒22名が参加した。道路周辺に落とされたゴミの回収、不法投棄された粗大ゴミの回収、市への報告などを行い、環境保全に努めた。

生徒たちも、ロータリークラブ、昭和大学の方々と会話を交えて主体的に活動に参加する様子が見られた。日頃から行われているロータリークラブ、昭和大学の奉仕活動を教えていただき、本校のクラブ活動に活かせる点はないか考えている生徒の姿も見られた。植樹活動では、地球温暖化が大きな社会問題とされている現代において、問題にきちんと目を向けるきっかけとなった。植樹の経験が初めての生徒が多く、笑顔で前向きに活動に参加する姿が見られた。



②活動事例2 「第25回富士ふれあいの村まつり」
連携 山梨県立富士ふれあいセンター 様

・ 事業目的

障がいのある方々と地域にお住まいの方々の交流を図り、相互理解を一層深めること。第25回となる今年度は、「やっと会えたね みんなの笑顔 心を1つに新たなまつりの幕を開けよう」をテーマに開催。

・ 活動内容（成果、課題等）

支援学校、福祉施設、福祉関係団体及び地域住民等による演技・演奏等の発表、作品展示、アトラクション（ゲストによる演技・演奏等）、模擬店、フリーマーケット、お楽しみ抽選会など盛りだくさんの内容で開催した。生徒の活動内容としては、駐車場誘導係、着ぐるみの着用、各アトラクションのスタッフとして活動をした。

イベントを通して、障がいのある方々との交流が深まった。障がいがあるないにかかわらず、このイベントを成功させるという目的のもと会話をし、協力をしていた。お互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会、いわば、「共生社会」を実現できていたイベントであった。生徒たちの中には「心のバリアフリー」（様々なからだや心の特性や考え方を持っている全ての人々が、お互いにわかりあうために、話をしたり、支え合うこと）について深く考えるものもいた。相手の感情を共に感じる力を見つけるイベントともなった。



■まとめ■

昨今のコロナによる影響は教育や経済、生活の様々な場面で大きな爪痕を遺してきたが、一方で私たちの生活が便利さや豊かさで溢れ、地域社会の多くの方に教育の場が支えられているという「ありがたさ」に気づき、考えさせられる貴重な機会にもなった。富士学苑は校訓にあるように人間性を育てるという教えを大切にしている。繋がりあうことに困難な時代の中で、生徒たちはその価値に気づき、自ら主体となって今何ができるのかを考え、社会に貢献できることを模索している。これまであった福祉施設などへの繋がりには未だ課題もあるが、奉仕活動や社会貢献の実践を今後も大切にし、生徒たちがより多くの人との関りの中で、成長できる教育を推進していきたい。

P T A 活動の実践と地域の連携について

山梨県立ふじざくら支援学校

1 はじめに

本校のP T A活動は、学校と家庭との緊密な協力を通じて児童生徒の育成と本校の教育の充実・振興を図ると共に、会員相互の教養を高め親睦を深めることを目的に取り組んでいる。P T A役員は、会長を中心に各学部副会長、各学年理事、監事で構成される理事会役員と、奉仕活動部、交流活動部、研修・広報部の3つの専門部会で構成されている。

本校のここ数年のP T A活動は、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、数々のP T A行事の中止が余儀なくされ、保護者同士の親睦の場がもてない状況であった。昨年度から、活動を制限する中でP T A行事の実施が可能になり、途絶えていた保護者同士の関わりが深められるようになった。昨年度のP T A活動は、各行事で学部ごとに活動を設定し、まずは学部の横のつながりを深められるように行った。今年度より、新型コロナウイルス感染症が5類に移行になり、P T A活動も従来通りに戻り、保護者も学部を越えた関わりをもつことができるようになった。

本校のP T A活動の特色であった、親子で楽しめる夏祭りの開催は、地域の学生ボランティアの協力を得て、毎年300人近い参加者があった。しかし、夏祭りについても、新型コロナウイルスの影響により、中止となった。夏祭りに替わる、P T A役員が中心となって児童生徒が思い出に残る活動を検討し、昨年、今年は「P T A主催風船飛ばし」を実施した。昨年度はP T A役員のみでの参加であったが、今年は希望する保護者も一緒に参加し実施することができた。他県からメッセージが届いたとの連絡があり、夏祭りとは違った形で交流を広げる機会となった。

2 実践報告

(1) 奉仕活動

保護者が学校内の清掃活動等を行うことで、児童生徒がより良い環境で学べる手助けをし、学校の理解を深めること、活動を通じて保護者同士が交流できる機会とすることを目的に実施している。

今年度は9月に実施し、42名の保護者の参加があった。今回の奉仕活動は、4年ぶりに開催される富士ふれあいの村まつりに向けて、体育館や校舎周辺、中庭の草取り、体育館の入口、下駄箱、椅子の清掃に取り組んだ。休憩時には、役員の方が準備した飲み物で水分補給をしながら、コミュニケーションを深めることができた。参加保護者からは、作業が終わらない部分もあり、もっと時間を確保しても良かった等の意見もあったが、保護者の協力により、校舎周辺や中庭が綺麗になり、児童生徒の過ごしやすい環境を整えることができた。



(2) 衣類交換会

昨年度の3月と今年度の5月に、サイズアウトしたもの、卒業を機に不要になった標準服と体育着を回収し、6月に衣類交換会を実施した。

子どもの体格に合った体育着やスカート、キュロット等の制服を選び、それぞれの家庭で必要な衣類を持ち帰った。事前にどのサイズがどのくらいあるのかを知らせていたためスムーズに選ぶことができた。また、地域交流先の、「NPO法人富士と湖とかかしの里」からウインドブレーカーやTシャツ等を提供していただき、どれも大好評だった。



(3) フードバンク

今年度も7月の個別懇談の折に、保護者の方に家庭で眠る余剰食品を持参していただき、『フードドライブ』への協力を行った。奉仕活動部員で箱詰め作業を行い、お米や乾麺、お菓子等多くの食品は、「NPO法人フードバンク山梨」と連携した都留市の「NPO法人ぐんないやー織 syokuー（耕雲院）」と「NPO法人富士と湖とかかしの里」へ届けた。



(4) P T A 主催風船飛ばし

夏祭りに替わる活動として、風船飛ばしを8月に実施した。今年は保護者にも呼び掛け、合計46名の参加があった。風船飛ばしの時間帯には雲が多くかかってしまったが、児童生徒達は、風船が飛ばないようにしっかりと手に持ち、「5・4・3・2・1 飛ばしましょう！」の合図で一斉に230個の風船が空高く舞い上がった。風船が飛んでいく様子に拍手や歓声が沸き起こり、みんなですべて風船の行方を見届けた。

風船には児童生徒や教員、保護者の思いを込めたメッセージが付けられた。風船や紐は土に返る素材、メッセージはシールで貼り付ける等、環境にも配慮した。



後日、群馬県安中市の(株)ユー・コーポレーション様からメッセージが届いたとの連絡があり、連絡のお礼に本校児童生徒から手紙を送らせていただいた。その手紙のお礼にと、(株)ユー・コーポレーション様から本校の児童生徒のみなさんで使ってくださると、たくさんの文房具が届けられた。



今年もメッセージを通して遠くの方とつながることができ、児童生徒たちの心に残る活動となった。

(5) 親睦会

活動を通して、保護者同士で情報交換をしたり親睦を深めたりすることを目的に、年に2回実施している。

1回目の親睦会は、座談会の後に体を動かしてリフレッシュする活動として、カローリング大会を開催した。一投ごとに歓声が上がリ、和気あいあいとした雰囲気の中で学年や学部を越えた保護者間の親睦を深めることができた。

2回目の親睦会は、PTA役員が主催する「あおぞら珈琲」を卒業生の保護者も手伝い、お茶会が開催された。コーヒー豆、焙煎、ドリップまでこだわった本格的なコーヒーを味わい、日頃の疲れを癒しながら話し、ゆったりとした時間を

過ごすことができた。お茶菓子は、本校卒業生も働いている富士河口湖町の福祉事業所「スイートベリー-KATUYAMA」に依頼し、お菓子の配達に来た際には、スイートベリー-KATUYAMA の紹介をしていただいた。また、手伝いに来た卒業生の保護者から、卒業してからの考え方や心情、また卒業生の現在の過ごし方等の話もあり、くつろぎながらも子どもたちの将来にもつながるような充実した親睦会となった。



3 まとめ

P T A 活動が従来通りに実施できるようになり、保護者同士の交流の場が増え、学年や学部を超えて保護者が相互に関わりをもつことができた。また、以前のような参加人数までには至らないが、今後も役員を中心として、保護者のニーズに合わせた活動を検討していき、活動を活発にしていきたい。

P T A 役員が中心となって児童生徒が思い出に残る活動として実施した「P T A 主催風船飛ばし」では、山梨県を越えて県外の地域の人と交流を深める機会がもてたことは成果であった。

また、地域交流先の「N P O 法人富士と湖とかかしの里」とは、衣類交換会の際に衣類を提供していただいたり、本校のフードバンク活動で食品を届けたり等、連携を広げていくことができた。

今後も保護者や地域の方々に、P T A だよりやP T A 新聞、ホームページのブログ等で多くの情報を発信し理解を深めていただくと共に、連携に向けた取り組みを一層深めていきたい。